

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第7回加東市小中一貫教育研究会
開催日時	平成28年1月27日(水) 16時30分から17時58分まで
開催場所	加東市役所 2階 201会議室
議長の氏名 (委員長 浅野良一) 出席及び欠席委員の氏名 【出席委員】13人 浅野良一委員 大野裕己委員 土肥貴雄委員 尾崎高弘委員 木村裕司委員 小林美穂委員 上月浩忠委員 岸本吉博委員 黒崎泰則委員 眞海秀成委員 佐々木正利委員 小林喜代治委員 石田和伸委員 【欠席委員】0人	
説明のため出席した者の職氏名 【オブザーバー】 大島巧男教育委員長 藤本洋二教育委員長職務代行者 神崎芳美教育委員 浅川るり教育委員	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 教育長 藤本謙造 教育部長 堀内千稔 教育総務課 課長 大橋博英 同 副課長 柴崎俊之 同 主幹 山本幸平 学校教育課 課長 登光広 同 副課長 平川真也 同 主幹 藤原良二	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 【議題】 (1) 小中一貫教育推進協議会の状況報告について (2) 最終報告について	

【会議結果】

- (1) 資料1に基づき、事務局から説明を行いました。
- (2) 資料2に基づき、審議しました。

【会議の経過】

1 開会

2 報告

(1) 小中一貫教育推進協議会の状況報告について

〔事務局説明（資料①）〕

(委員長)

3地域の協議会の報告がございましたが、委員の皆さんはいずれかの会議に参加されておられると思いますので、補足がありましたら社、滝野、東条の順でお願いしたいと思います。まず、社地域の協議会でございますが、お願いしたいと思います。

(委員)

うまくまとめていると思います。設置場所の一番下のところで、徒歩通学、スクールバス運行も同条件となる箇所が良いという意味ですが、あまり差が出ないような形でお願いしたいということがあったように思いますので、よろしくをお願いします。

(委員)

記載されているとおりでと思いますが、開校時期について慎重にすべきという意見と、できる限り早いほうがよいという意見がありました。その慎重ということが、結局どのくらいかという幅は会議の中では計れませんでした。慎重ということは平成33年を目安に考えて発言させてもらいましたが、皆さんはもっと早いほうがよいというような意見なのかなという感想を持ちました。

(委員長)

続いて、滝野地域の協議会につきましてお願いしたいと思います。

(委員)

滝野地域も大体まとめている感じで話が進行していましたが、いろいろな立場の人もたくさんいらっしゃいましたので、少数意見もありました。施設の形態に関しましては、ここに併設型でもよいのではないかという意見が載っていますが、いろいろと視察等をしていましたので、教育効果を考えると一体型にしたほうが効率が上がるし、併設型ではなかなか小中一貫教育はうまくいかないのではないかという意見のほうが多かったと思います。

(委員)

開校時期については、概ねこのような意見だと思いますが、3回目の協議会ときには順番問わず、できるだけ早くという意見が多数を占めていたと思いました。

(委員長)

最後になりましたが、東条地域の協議会についてお願いします。

(委員)

昨日、会議をしましたが、うまくまとめてもらっております。やはり、西小学校が今度、新入生が非常に少ないということで、なかなかせっぱ詰まった気持ちでそういう意見が多数出ました。特に場所について、安全第一ということが強調されておりますので、その点もよろしくお願いしたいと思います。

(委員)

東条地域でも文化会館の指定管理が決まったということで、そこで子どもたちがこれまで取り組んできたという東条の歴史がありまして、現在ある文化会館、東条中学校のあたりがやっぱりよいのではないかという意見に導かれたというのも文化会館が要因となっているのかなと感じました。

委員も言われたように、安全への配慮については非常に意見が多く出ました。差し迫った通学の話、中学校の地すべりの話、水の話など、いろいろと出ていましたが、そのような部分の安全配慮という意見がたくさん出ました。

それと、敷地の問題が気になっていらっしゃる委員があり、そんな中で出た意見として、ソフト面は5年もあれば心配ないというような意見もありました。逆にハード面が心配という意見が出ていたというようなことです。

また、開校時期のところにあります地域の協力が得られるというところですが、東条地域はこれまでのいろいろな取組の中から、住民同士がお互いにつながり合っているという状況の中で、皆で協議はできるのではないか、知恵を出し合えるのではないかという土壌があるということでの意見だったと思っております。

「児童・生徒、地域が新しい学校をつくり上げていくということを東条地域から発信していけばどうか」というところで、自分たちの学校をつくっていこうというものが地域にないといけないと感じました。

(委員)

子どもが通っている中で安心・安全をすごく重要視されているというのがわかりました。設置場所についても東条ダムの関係で、大雨のときの河川の氾濫などで子どもたちが危険な状態に置かれないようにという安心・安全の部分がたくさん出ていたと思います。

開校時期については、私自身が今の社中学校の統合1年目に入学しており、当時、体育館とプールが実際ありませんでした。授業の形態等も本当に中途半端なハード面の中で始まっていったのですが、生徒の中では途中でどンドン建物が建つので、気持ちとしては自分たちの学校を自分たちがつくり上げていくという、一つの担い手として生徒が関わっていった経験がありましたので、100%の物を用意してということではなく、いろいろつくり上げていくという部分も学習になったという記憶があり、その苦労話も含めて自分たちで、地域を含めてつくったらどうですかという話でした。

(委員長)

ありがとうございました。微妙なニュアンスの言葉等について、3地域の協議会の皆さんにうまく補足いただいたと思いますが、いかがでしょうか。自分の地域以外の協議会の内容については、どのような評価かというような御質問がありましたら御発言いただきたいと思います。

よろしいですか。

それでは、議題の1番目の協議会の報告はここまでにいたしまして、もう一つの議題の最終報告の素案につきまして協議したいと思います。

そこで、まずは最終報告案につきまして、事務局から御説明をお願いします。

3 協議

(1) 最終報告について

〔事務局説明（資料②）〕

(委員長)

今、事務局から御説明がありましたように、我々が特に今回の会合で議論すべきは、7ページの下の方の(1)以下から10ページに至るところということでご

ざいます。今までのいろいろな議論を踏まえて最終報告書のたたき台をつくっていただいておりますので、この部分について補足、あるいは加筆修正等がございましたら意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

今、私が思ったのは、特に（２）番の教育委員会がイニシアチブをとって推進するという事は当然必要なわけですが、非常にボリュームのある仕事を教育委員会でこなしていかなければいけないということになると思います。したがって、小中一貫教育担当、あるいは課、グループ、係といった組織を教育委員会の中につくって、総務や今やっているものを横断的に取り組む組織が要るのではないかと思います。

兵庫県内でも、小中一貫をやっておられる姫路市等はそのような組織がありますので、少し考えないと、業務が非常に散漫になる可能性がありますので、実際いかがなものでしょうか。

要するに、新しい取り組みだから新しい組織で対応するというのが忙しい中でも一番効率的なような気がするのですが、いかがなものでしょうか。

やはり結構ボリュームがある仕事ですから、縦割りの総務とか、学校教育とかというふうな組織では、なかなか連携がうまくいかなくなるので、そこを一貫して取り上げるグループや課、係などがあるといいのでは。皆さん、いかがですか

(委員)

研究会が立ち上げられて、協議が始まったころに、普段、子どもたちを指導しながらこの仕事も準備の仕事もしないといけないということになりますとかなりの負担がかかるので、是非加配をとという話をしたと思います。それとつながりますが、教育委員会にリードしていただいて、また、教職員が持ち味を出しながら小中一貫校をつくっていくに当たって、今、準備室がありますが、教職員のメンバーが入った組織というのはやはり別に要るのではないかと思います。特に、カリキュラムづくりなどはかなりよく考えて、少し計画を立てて試行しながらバージョンアップし、開校のときには良い形になっておればと思います。そのためにはかなり、いろいろな協議をしたり、実際につくるなど、かなりの負担がかかりますので、教育委員会にリードしていただくという組織を新しくつくっていただいたらありがたいです。

(委員)

本年度から小中一貫教育準備室ができて、随分、会議等がスムーズに行われていると思います。ただ、準備委員会ということになりますと、教職員にも大分負担がかかってきます。そこで、２番の教育委員会内にイニシアチブをとるということで、教育委員会内の組織もさらに可能であれば、今、教育総務課のほうに配置されていますが、学校教育課に関係性もありますので、学校教育課の人員配置もしていただくような形がよいのではないかと思います。

あわせて、加配教職員の配置というようなことで、県費ですので、県に対してもそうかもしれませんけれども、市のほうとしても、加配教職員を市費でということも可能なのかわかりませんが、その辺も大胆な配置ができれば、学校側としても大変助かるということも思います。

そして、続けて申しますと、（３）番のところ、校長会で評価部会というのがございまして、これにつきましては、小中一貫教育が今議論されていますが、６年、７年前ぐらいからは少なくとも小学校と中学校の教員が、例えば算数、数学というふうに教科ごとで会議をしております。そういう会議をより一層活性化させながら、カリキュラムづくりができていけばと思ったりもします。

(委員長)

今、委員からお伺いして、教育委員会の中にそういう各部署をつくるということ

と同時に、横断的なチーム等をつくって動かしていくというようなものです。

これまでの他市の例を見ますと、こういった新しいことに対する組織づくりという観点から何か事例、御意見がありましたらお願いしたいと思います。

(委員)

特段厚みのある意見は今のところ手元にありませんが、かなり横断的な課題で新しい枠組みをつくり出すような中身ですから、先ほど委員長もおっしゃったような体制的な部分で、教育委員会においてもそれが見える姿勢、体制をつくるということは大事ではないかと思えます。

(委員長)

ありがとうございます。

いかがでしょうか。できれば今申し上げたようなニュアンスのことを加筆いただくか、つけ加えていただくというふうなことをお願いしてもよろしいでしょうか。皆さん、よろしいですか。

[異議なし]

(委員長)

事務局、何かございますか。

(事務局)

よりよい学校をつくっていくために、皆で協力していくためには新たな組織が必要であろうということで、取り立ててカリキュラム等、学校の先生と一緒にやっていくことが今後多くなりますので、教職員の配置をという御提言につきましては本当にありがたいと思えます。

(委員長)

それでは、加筆をしていただくということにしましょう。

(委員)

今後、準備委員会が立ち上げられて、具体的に細かいところを皆さんで話し合いながら学校の中身を骨組みから肉づけしていくわけですが、構成委員は一応学校評議員、地域代表、就学前の児童保護者、あとは小・中学校保護者代表、小・中学校関係者代表、学識経験者となっています。学校関係者プラスそのPTA関係の代表の人が出てくると思いますが、構成委員としてはその比重が偏り過ぎているのではないかと思えます。

これだけの部会で、幅広い分野でいろいろな人の様々な意見が必要になってくると思えます。実際に地域には消防団、商工会、婦人会、老人会もあり、いろいろな人がいるわけですし、できれば地域の中からもっと幅広い分野の人たちを巻き込んで、地域に根差した学校を自分たちでつくり、実際にでき上がったときに自分たちでつくった学校ができたというような意識の統一ではないですが、そういったものを組織の中に入れていったら、もっとよりよい地域に根差した愛着のある学校ができるのではないかと思えます。

ただ、構成員を幅広くして、何十人、何百人となるのもなかなか難しいと思えますので、例えば校章であったり、校歌であったりは、委員の中で話し合いをしなくても、例えば一般の住民に募集して、アイデアを出してもらって吸い上げるなど、いろいろな方法はとれると思えますので、そういう意味で幅広くいろんな人の意見を集約しながらしていただいていたらいいのではないかと、この組織図を見ながら思いました。

(委員長)

7ページの(1)の部分ですね。数多くの方の参画というのは、良いアイデアが出てくるということで、中身の充実にもつながりますし、その後スタートした後に一緒にやっていくんだという気持ちの盛り上がりにもつながりますので、是非広

がった方がいいですね。ただ、人数を多くして何百人単位になるとまとまりませんので、アイデアの公募等をうまく活用していくということについては、いかがでしょうか。特に、校章や校歌は良いアイデアをお持ちの方がいらっしゃると思いますね。

(委員)

社地域の地域推進協議会で各小学校区の代表区長さんが、4ページの課題の整理と対応方法についてというところにも記入してありますが、部会の構成委員にもっと若い人を入れてということをおっしゃっていました。

(委員長)

確かに代表となりますと、経験豊富なベテランの方がいらっしゃるケースが多いので、若い方の意見、アイデアも特に吸い上げる仕組みをつくるということですね。

(委員)

今、教職員の加配という意見もありましたが、ソフト面は、頑張れば5年もあれば十分だということも昨日実際出たという話もさせてもらいました。本当にハードのほうに逆に間に合うのかなという心配を市民はしていると思います。

そのような中で、今の先生の加配も非常に大事ですが、例えば、用地買収が必要であるとか、補助金を取らないといけないとか、あとは設計にかかっていかないといけない。それは先生方、保護者、地域との打ち合わせをしながらになるので、設計も思うように進まず、時間がかかる。準備委員会の中でいろいろな部会があって、やればやることによって議事録をまとめて報告し、方針を打ち立ててということが出てきて、その運営をやっていく。そのあたりの会議の資料は誰がまとめるのか。また、後、どのようにまとめていくのか。それをどのように反映させていくのか。そのような部分に相当時間がかかると思います。それをどのようにこなしていくのか。

人に対することを中心にやると、ハードのほうの結果として追いつかなくなってしまう。そんなことを市民の方々も心配されていて、私も心配になると思います。研究会で良いことを言ったけど、できずに格好悪い話になったということにならないように、そのあたりも含めての推進体制、組織づくりということを考えていけないといけないのかと思います。ここにどう書くのかというのは別の話ですが、そんなことを感じました。

(委員長)

私の考えからすると、教育委員会の中に全体を取り仕切るチームだけではなくて、役職的にも比較的高目の方を置いて回していく必要がある。しかも、施設云々になりますと市長部局に対する影響力もかなり行使していただく必要もありますので、そういった技量のある方を置いていただいて、チームをまとめていただくというようなことも、今の委員のお話からすると必要なのかなという気がします。

ですから、こうやったらうまくいくというアイデアはありませんが、今の委員の御意見は今申し上げたようなところも1つの考察としてあるのでしょうか。

(委員)

実際、建物の設計は専門家がされると思いますが、レイアウトをこのような感じにするとか、例えば階段の高さをどれぐらいにしようということがあって、実際設計に入って、建物を建てるときの概略の工数というのはどうなのですか。どれぐらいの予定にしているのでしょうか。

ステージと言いますか、例えばハード部分は1年もあつたら十分できますという部分です。

ですから、これぐらいの期間で専門の方が設計をして、建物を建てますという何かがわからなかったら不安なので、ある程度、何か目途があつたらお示ししていた

できれば、その辺の不安を解消できるのではないかという気はしますが、何かありますか。

(事務局)

ハードの工期は、学校の校舎ができる本体工事としましてやはり1年半はかかると思っております。

あと、例えば植栽関係や周辺の道路整備など、周りの環境の整備をする外構工事はプラスアルファとして開校後もできる部分があります。

発注の前には当然、設計という行為が生じてまいります。設計に関しましても、基本設計があって実施設計という形になってまいりまして、その設計の部分としましても1年はかかると思っております。その間に、開発行為という申請等、いろいろな法律もクリアしないと着工ができませんので、そのような調整を設計と同時にやっていかなければならないというのがあります。やはりその辺を足し込みましたらハードだけで3年はかかるとはなかろうかというふうには今のところ想定しております。

先ほど委員も言われましたように、当然、用地の確保というのがありますので、それにつきましても並行してできましたら早い目にかかりたいと思っております。これもやはり何年かかかるのは覚悟しておりますので、ハードだけを見ましたら、やはり5年は必要ではなかろうかというふうに思っています。

(事務局)

今、ハードの話がありましたが、ソフトも一応、概ね5年ということで、こちらにも書かせていただいております。研究所員会でカリキュラムづくりの素地づくり、要は先生方に研究をしていただいております。小学校と中学校の先生に教科に分れていただきまして、9年後、要は中学校3年の卒業時の姿を見据えて小学校段階でどういったこと、中学校段階でどういったことを共通で目的意識を持って教科の目標を立てていき、それに合わせて出前授業、例えば中学校の教員が小学校に行ってこういったことをすることによって中学校へつないでいくというような具体的な話を今、研究で進めております。

今、この素地ができた段階に入っており、来年度いよいよカリキュラムづくりに取りかかります。これが2年かなと思っております。その後、学校で、できることから試行してもらいます。また、先ほど言ったPDCAに3年。実際の新たな学校でカリキュラムを教育計画に落としこむ作業がございますが、これはやはり、その時点での子どもたちの様子を見て学校の先生方がつくるべきものだと思います。教育計画ですから、年度更新で変えていけばよいと思っておりますので、ソフト面から見ましても今申し上げたように5年は欲しいと思っております。ということで、準備委員会は概ね5年前というようなことで考えております。

それとあわせまして、今5年と言いますのは、私どもがモデルにしている先行校がいろいろありますが、そういったところの意見を聞きますと大体3年から5年です。用地確保等が簡単にできるようなところだったのかと思いますが、3年でやっているところもあります。ただ、3年では試行段階がないということで、カリキュラムが少ししんどかったということも聞いていますが、カリキュラムが教育計画で変わっていくもので、生きていくようなものですので、大筋が決まれば子どもたちの姿でどんどん変えなければいけないとは思っているという意見を聞いております。

(委員長)

今、議論がありましたが、いずれにしても教育委員会の組織だけではなくて、いわゆるスケジュール管理といいますか、そちらを綿密に立てていただいてその進行に対する取組を、とりわけこういった類いのものについては強化しないといけないという感じです。ハードはできたけどソフトはできない、ソフトはできたけどハー

ドができないということになりますと、せっかく新校を立ち上げるといったときに、盛り上がり水を差すようなことになりますので、スケジュール管理等についても一筆入れていただくというようなことも必要かなと思っております。

(委員)

これもおそらく書き込まれない話になるかと思いますが、人の面のことです。10ページにモデル図があって、一応、事務局からモデルと言われていたので、これからの私の意見は、蛇足になるとも思っています。

この準備委員会の組織の中で、学校運営委員会や学校教育委員会というふうに分けて、そしてその中でどういった方々が入っていくかという部分については、非常によく整理されていてわかりやすいと思います。あと、おそらくもう少し考えていけないといけないかなと思うのは、学校にはまだほかにサポートスタッフがおられます。とりわけ学校の事務職員が、特に小中一貫ということになればその中での動き方が出てくると思いますし、例えばそれが共同実施というふうな形があるかと思えます。

その中で、今、国の中教審答申の中でも、事務職員の方々がこういった小中一貫において、例えば地域の連携における役割を発揮していくといった流れも出されていて、モデルというこの図面の中で、事務職員さんとかのプレゼンスが少し見えない感じです。ただ、モデルであるからそのあたりは多分応用されていくとは思いますが、このあたりも検討は必要かなと思います。大阪でしたが、割と事務職員が研究熱心であって、小中一貫に関わる様々な学校運営の参画というふうなところも積極的に研究してやっという流れがある。

あと、もう一つ上げると、地域の方々が関わる構成委員というところでも、先ごろの中教審の答申にもあったチーム学校ということが出てきていて、小中一貫によって子どもの福祉的な側面も少し加味するところまで、一貫という設定の中でアプローチができていく部分もあるとすれば、学校に地域の方の中でもそういったことに知見のある方々の参画の構図ももう少し描いてもいいのかなと思ったりします。

ただ、これも例えば地域の代表や学校評議員の中でそういった方々もおられれば普通にクリアできている話なので、とりたてて述べる必要もないと思いますが、そういうこれからの枠組みみたいなものを少し想定した部分も研究として進めていけるといいかなと思ったところが意見であります。

(委員長)

今、出ましたように、中教審のチーム学校の答申がこの12月に出ました。これは内外のいろいろな人たちのまさに教育によって学校をよりよく推進するということで、確かにその辺の観点がそれほど明確には出てないということで、どこかでそれがわかるような、そういったことを知っていて意識しているような修正も多分できると思いますので、お願いできればいいのかなというふうに思います。

いかがでしょうか。

(事務局)

貴重な御意見ありがとうございます。チーム学校の考え方は、私どもが先ほどから言っているおらが学校、皆で支える学校と、まさしく理念が合致しております。ありがたいことに加東市は、そういった地盤が元々からあります。チーム学校を見ていましたら空洞化した大都市の中の学校を支えていくというようなイメージがありますが、そういったところで、改めて加東市の今の教育環境、先ほどの東条が応援団になり得るというようなところをできる限り落とし込みたいと思います。

(委員長)

あと、いかがでしょうか。

(委員)

先ほど教育委員会でリーダーシップをとっていただけるような組織の話をさせてもらいましたが、今、10ページの表を見て、新しい組織になると今の業務をしながら今度は事務職員も含めて現場の教職員が関わっていかないといけないということで、加配はある程度は期待できることはできますが、それ以上に何か大変な負担がありそうに思ったりもします。そこから考えると、今ある組織をうまく活用しながらと委員がおっしゃった部分で、教科で小・中連携の授業研究、それから講師を招いての研修をしております。その組織をうまく活用しながらカリキュラムを研修する。カリキュラムづくりについては、研究所員会である程度骨子、レシピができて、それを各学校で味つけをするのですが、それに至るまでに教員も勉強し、研修しながら加東市全体の教員が小中一貫教育に対してレベルアップして、そして開校に向けていけたらなと思ったりもするので、その辺も校長会で協議しながらカリキュラムづくりに係る研修、そしてその研修計画とその実施をしていけたらと思います。

(委員)

10ページのモデル図ですが、今、委員も言われましたように、既存のものをうまく活用しながらしていくとより効率的だと思います。それで、構成員が決まってその中で部会を決定し、どの部会に入るかというふうなことだと思いますが、部会の提案者といいますか、素案づくりをするところを決めて、逆にもう少し大きな立場であるいは広く見るということで、そこで承認を求めるという発想もあるのかなと思います。

例えば、学校教育委員会のことでいいますと、特別支援教育部会というのは、もちろん先ほど言った教科以外の部会の中にございます。だから、そこで集まってくるわけですから、既存のもので小中一貫になるとよりこういうふうなことをしたらどうかという候補をつくって、そしてもう少し広く、例えば連携している学校長のところや管理職、あるいは地域に承認を求めるといったことも可能だと思います。

この中で、校則に関する部会というのもございますが、例えば生徒指導のところにも統合するというのも可能だと思いますし、あるいは標準服の検討ということも生徒指導の部会で話をしたらいいのかなと思いますので、既存のところ、ある程度もう一度精査しながら、そこを提案部署にして広く意見を求めるといったような発想もあるのかなということも思いました。

(委員長)

事務局につくっていただいた別記の後の部分は、まさにまだ案のレベルでございますので、今おっしゃっていただいたように見直しはその後できますし、案と書いていただければいいと思いますが、今の御意見、いかがでございますか。

(事務局)

委員から非常にありがたいお話をいただきまして、ありがとうございます。専門委員会の中の学校教育委員会については、学校の現場の先生方に、やる気になってやっていただくというのが一番ですので、よくいわれるボトムアップの形式をとるべきだと思います。そのためには、先ほど既存の団体ということで、校長会で教科、領域の研究部会をお持ちですので、そこと連携をさせていただいてそれを母体にしてやっていき、そのイニシアチブをとるのが教育委員会というような位置づけです。

これはあくまでも提言の中のモデルということで置かせていただいて、実際に28年度に準備委員会立ち上げますので、その立ち上げの時期に学校教育委員会については校長会と連携し、一度協議の場を持たせていただいて、少し加東市版に変え

たいと思っております。

さすがに次の提言までにこれを完璧にするということは無理だと思いますので、モデルという形はこのまま置かせていただけたらと思います。

(委員長)

いかがでしょうか。今出ておりますのは、この7ページ、8ページの関連で言いますと、まず(1)の準備委員会の設置等のところにつきましては、多くの皆さんのアイデアを募集するためにアイデアの公募とか、そういったものを工夫したらどうかということですね。

それと、(2)番としては、教育委員会としてのイニシアチブとして、組織づくり、あるいはスケジュールの管理、あるいはチーム学校を活用する等々が出ております。

(3)の校長会の支援と今のイニシアチブに関わる場所ですが、従前の教科部会、また領域の部会を活用して教員の参画と資質向上を同時に狙っていくというような御意見が出ております。

あとは、いかがでしょうか。

(委員)

8ページの取組内容の上から2つ目ですが、「安全性や空間的なゆとりを確保しながら子どもたちの主体的な活動を支援し」の意味がわからないので、教えてもらえたらというのが一つと、次のページの(3)の校長会による支援のところの一番最後のところですが、「児童生徒の実態や地域住民、保護者の考えに即した」という言葉が少しわからないです。

(委員長)

それでは、1つは(1)の取組内容に関して、安全性や空間的なゆとりを確保しながら子どもの主体的な活動を支援するというのはどういうことか。それから9ページ目の(3)番です。下から2行目、児童生徒の実態や地域住民、保護者の考えに即したより効果的なカリキュラムを確立することが重要であるということについて補足もしくは御説明をいただけますか。

(事務局)

次回にはわかるような表現に変えたいと思いますが、意図していることだけ説明を申し上げます。

まず、8ページのほうの安全性、空間的なゆとりというのは、これは簡単に言えば凌風学園や東山開晴館のように、廊下が広い、階段の高さを配慮している、低学年の子どもたちの遊び場所が教室のすぐ横にあるなどということで、これが安全性や空間的なゆとりを確保しながらということですね。それと、子どもたちの主体的な活動というのは、広い廊下の交流スペースに本が置いてあるとか、遊びスペースがあり、普通に上級生と下級生が休み時間に遊んでいるといったことです。ただし、わかりづらいので、考えてもう一度書かせていただきます。そういったところを、いろんな部会で先生方や地域の人たちの御意見をいただきたいということでここに書いております。

9ページの実態や地域住民、保護者の考えに即したカリキュラムの確立ということで、これも非常にわかりづらい書き方ですので変えさせていただこうと思いますが、意図しているのが、子どもたちの教育に対して強い思いを持たれているのは地域の方や保護者なので、その保護者の思い、願いをカリキュラムの中にできるだけ反映させましょうということです。例えば、私どもが考えているのがふるさと学習「かとう学」。これは地域への愛着というものがメインになっています。それは当然、地域住民の願いでもある、地域への愛着を持ってほしいというようなところを考えると、保護者の考え、思いなどに即したカリキュラムの確立ということで

書いておりますが、わかりにくいですので、ここも変えさせていただきます。ありがとうございます。

(委員)

即したというところが非常にひっかかります。地域住民、保護者が皆で話はいきますが、その考えはたくさんありますので、そこは本当に即せないのではないかと思います。

(委員長)

即したというのは言葉としては不自然な感じはしますよね。要するに、考えにべったり引っ付いたという感じを受けますので、そういったことにも配慮した、あるいは願いを踏まえたとか、そういうニュアンスではないでしょうか。即したというのは、私も何か変な感じです。

先ほど申し上げた加筆項目と、あと2箇所の修正項目が出ておりますが、他、いかがでしょうか。

(委員)

10ページのモデル図で、専門委員会があってその下に部会が置かれますが、その専門委員会の構成員はどこかの部会に入れると思います。その部会を構成する人というのはこの構成員だけですか。それとも、その部会に他の人を入れて部会を広げるといったことなのか、その辺はどうですか。

(委員長)

部会の構成員、あるいは委員会の構成員の関係について、今、お考えのところをお聞かせください。

(事務局)

地域推進協議会を母体とした委員会とすると、役が今年で終わってしまうとかという御意見が地域推進協議会でありました。若いお母さん方や委員の方の中には、何年後になろうとも参加したい、私がつくった学校だということをお孫さんに自慢したいというような方もいらっしゃいました。そのような思いを持たれているので、当然部会に入っていた方がいいですし、その部会と専門委員会それと準備委員会をつなぐのは人だと思しますので、共通はしていると思います。

その中で、例えば互選になるのかというようなことは地域ごとの準備委員会で決めていただくのがいいのかなと思います。こちらからこういったモデルですが、どういうふうに専門委員会つくりましょうとか、先ほど言ったように地域の実態に即した準備委員会にすべきだと思います。それが自分たちで作り上げた学校というようなことにつながると思いますので。

(委員)

部会を構成する部員というのは、構成員も当然入ってきますが、それ以外の方もそこに入ってくるという解釈でいいのですね。

若い方をという声も出ていましたが、実際今の学校の様子などを見ていて、特にふるさと学習などとなりましたら、結構高齢の方が小学校に行き指導されたりしています。当然、助けを借りないとやっていけない面もあると思うので、そういう人が入っていく機会、意見も必要だと思いますが、構成員の中で地域のそういう方が入っていません。学校評議員がありますが、私になっている学校の評議員は老人会の役員も入っておらず、そういう人の意見が汲み取れる場所が少ないということになります。通学路の安全対策に立っても地域の老人会の協力というのは不可欠だと思うので、その辺のことを十分配慮して部会等はされたいのではないかなと思います。

(委員長)

ですから、先ほどのアイデアを多くから求めるといったところに対して、ただそ

のアイデアを出してもらおうということではなくて、今、委員がおっしゃったような部会のメンバー構成等にも配慮しながら、いわゆるいろんな方面からの意見を吸い取れるようにすることなのではないでしょうか。

あと、いかがでしょうか。

それでは、時間も参っておりますので、今日いただいた意見を加筆あるいは修正をしていただいて、今日出てきましたこの案を再度生かしていただくということで、次回よろしゅうございますか。そこでまた検討して最終的に報告書に仕上げていくというふうな段取りにしたいと思います。よろしいですか。

〔異議なし〕

4 事務連絡

5 閉会

【資料名】

資料① 第4回地域別小中一貫教育推進協議会での主な意見概要

資料② 加東市小中一貫教育研究会最終報告（案）

平成28年4月1日